

## 〈特集〉 シリーズ：研究の技法

— 大学院生のため実践的ガイド — (第1回)

大学院カリキュラム委員会

埼玉大学大学院人文社会科学研究所（経済経営系大学院）は、専門的な学術論文の執筆を目指す社会人と留学生のための研究教育機関というコンセプトで設置された大学院であり、多くの学生が本大学院で学び、学位論文を執筆してきました。紀要『経済科学論究』は、在学生・修了生が取り組んできた研究成果の記録であり、働きながら論文を執筆するとは、どのようなことにチャレンジするのかについてイメージを掴みたい人は、まずは本誌バックナンバーを紐解いてみてください。

社会科学に関する専門知識を学びながら、調査・研究を進め、学位論文を執筆することは、社会人や留学生にとってハードなミッションです。しかし、忙しい社会生活を送りながらも、知識のインプットで満足することなく、自分で研究課題を定め、立ち止まってじっくり考え、試行錯誤の先に何かを発見し、それを学術的な論文としてまとめあげていく作業は、努力する価値のある知的営みです。

本シリーズ「研究の技法」は、そうした挑戦を志す埼玉大学経済経営系大学院で学ぶ大学院生を直接の対象とし、社会科学の学術論文とはどのようなものか、論文作成のプロセスではどのようなステップをふむのか、論文では何をどのように検討・議論するのかなどといった、誰もが知っておくべき事柄や研究を進めていく上でのヒントなど、実践的な情報を提供するために企画されました。

シリーズ第1回の本号は、大学院立ち上げの段階から中心的役割を果たしてこられた伊藤修先生に、巻頭論文「社会人大学院 20年の歩みから」と題した総論を御寄稿いただきました。また禹宗杭先生には、博士論文作成プロセスを実践的かつ多角的に論じた「博士論文の進め方 — 質的研究を中心に —」を、水村典弘先生には、事例研究のあり方にフォーカスした「経営学分野における事例研究型の論文」をご執筆いただきました。また田口博之先生には、留学生向けに投稿雑誌の選択に関するノートを、英語にて御執筆いただきました。

次号以降も、様々なテーマ・トピックスを取り上げていきますので、本シリーズを研究のガイドとして、積極的に活用していただければと思います。